

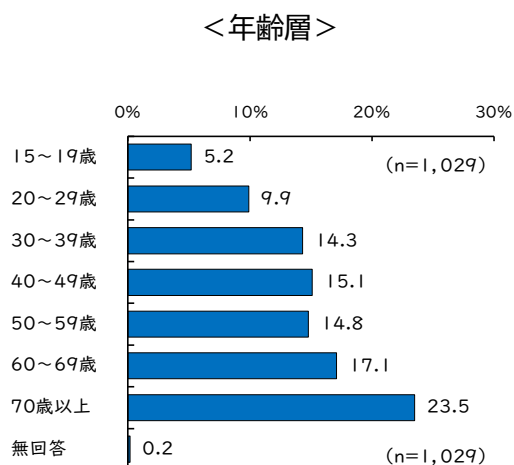
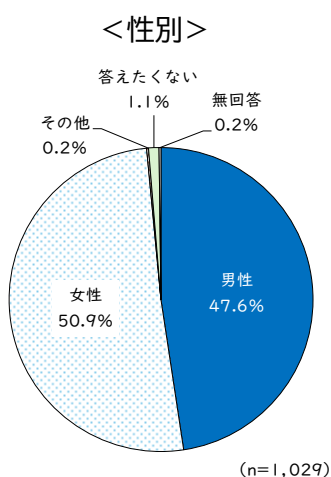
第3次厚木市文化芸術振興計画に係る意向調査 調査結果 概要版

1. 調査概要

- (1) 調査地域 厚木市全域
- (2) 調査対象 厚木市在住の15歳以上の男女（外国籍市民含む）
- (3) 対象者数 3,000人
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送配布・郵送または電子申請による回収
- (6) 調査期間 令和7年10月2日～11月13日
- (7) 回収状況 有効回収数：1,029票（郵送543票・電子申請486票）／有効回収率：34.3%
※前回（令和2年度）の有効回収率は29.6%であり、4.7ポイント増加。
特に、オンラインによる回収数は2倍以上の増加（前回：203票）。

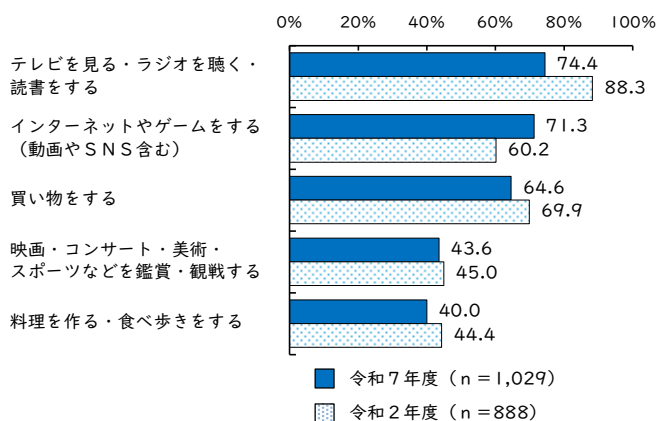
2. 調査結果

【回答者の属性】



◎回答者の性別については、男性が47.6%、女性が50.9%と大きな偏りは見られず、概ね均衡した構成です。一方、年齢層で見ると、70歳以上が23.5%で最も多く、次いで60歳代が17.1%、40歳代が15.1%の順で、中高年層の割合が比較的高い構成となっています。

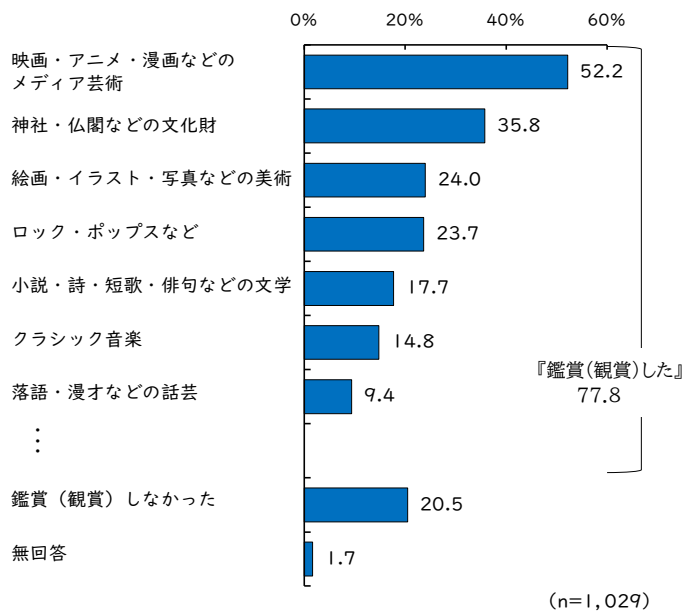
【余暇の過ごし方】（上位5項目）



◎余暇の過ごし方は、「テレビを見る・ラジオを聴く・読書をする」が74.4%と最も多く、僅差で「インターネットやゲームをする（動画やSNS含む）」が71.3%の順で、上位2項目はいずれも自宅や身近な場所で気軽に行える活動となっています。

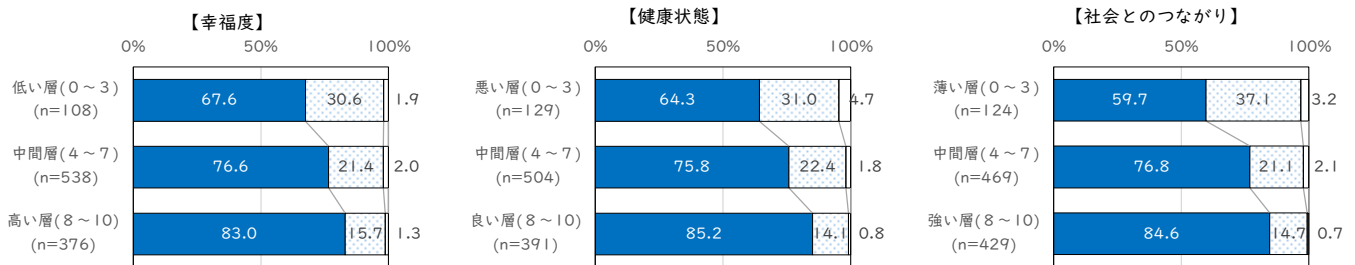
経年比較すると、上位5項目のうち、「インターネットやゲームをする（動画やSNS含む）」のみ、令和2年度よりも多くなっています。

【文化芸術の鑑賞状況】（上位5項目）

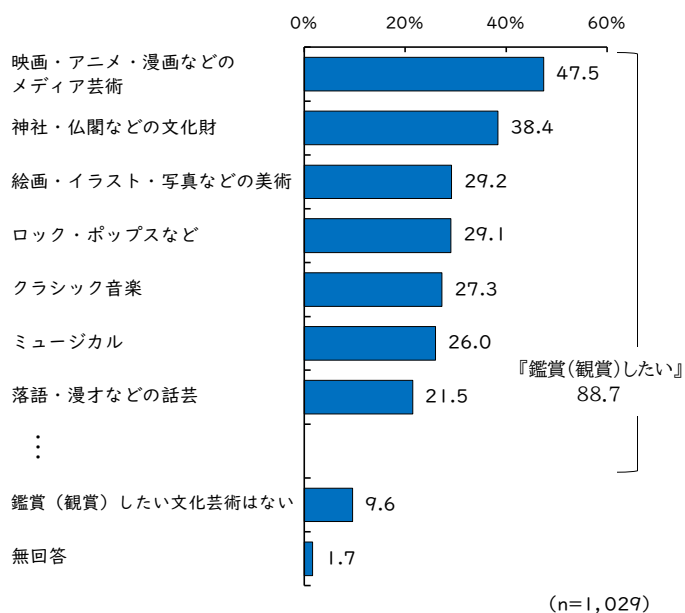


◎この1年間において、いずれかの文化芸術を鑑賞（観賞）した割合は、全体から「鑑賞（観賞）しなかった」と「無回答」を引いた77.8%となっており、具体的な文化芸術の鑑賞項目は、「映画・アニメ・漫画などのメディア芸術」が52.2%と最も多く、次いで「神社・仏閣などの文化財」が35.8%、「絵画・イラスト・写真などの美術」が24.0%などとなっており、比較的参加しやすい分野が上位を占めています。（なお、音楽については、ジャンル別に選択肢を設定しているため、個々では上位項目に入っていませんが、全てを足し合わせると、約6割に達します。）

ウェルビーイング（well-being）※の3要素との関係を見ると、いずれの要素においても、点数が高い層ほど「鑑賞（観賞）した」が多くなっており、正の相関関係が顕著に見られます。

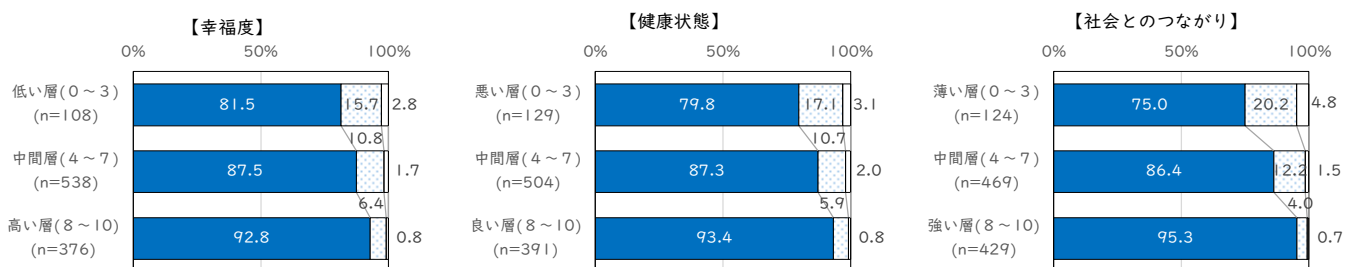


【文化芸術の鑑賞意向】



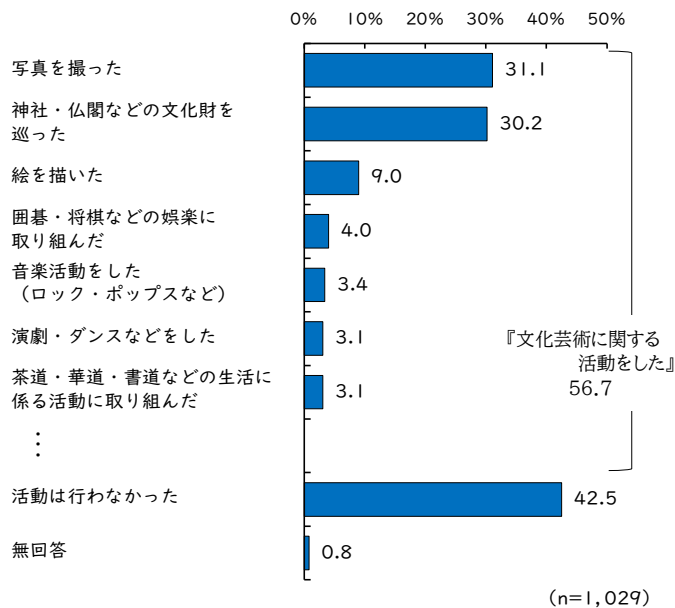
◎いずれかの文化芸術を鑑賞（観賞）したい割合は、全体から「鑑賞（観賞）したい文化芸術はない」と「無回答」を引いた88.7%となっており、具体的な文化芸術の鑑賞項目は、前問の実際に鑑賞（観賞）している項目とほぼ同じ順位で、「映画・アニメ・漫画などのメディア芸術」が47.5%と最も多く、次いで「神社・仏閣などの文化財」が38.4%、「絵画・イラスト・写真などの美術」が29.2%などとなっています。

ウェルビーイング（well-being）の3要素との関係を見ると、いずれの要素においても、数値が高い層ほど「鑑賞（観賞）したい文化芸術がある」が多くなっており、正の相関関係が顕著に見られます。



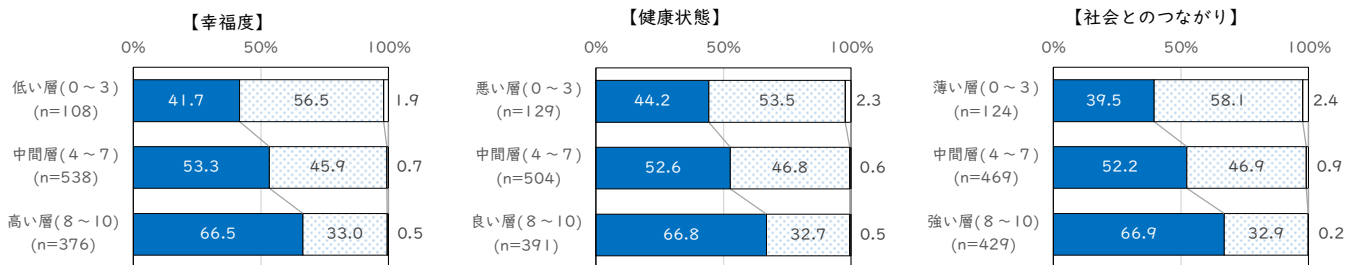
※ウェルビーイング(well-being): 身体的、精神的、社会的に「満たされた状態(よい状態)」にあることを指す概念で、WHO 憲章で“健康”の定義として用いられています。

【文化芸術の活動状況】

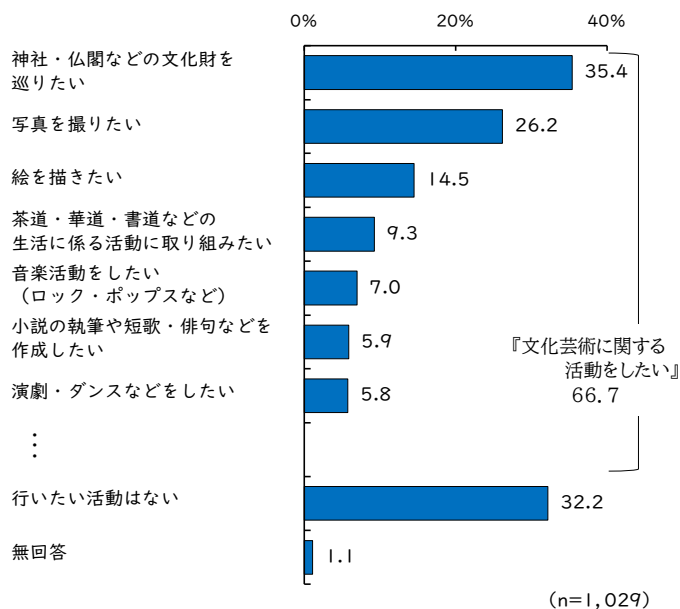


◎この1年間に行った文化芸術に関する活動は、「活動は行わなかった」が42.5%と最も多く、いずれかの文化芸術に関する活動を行った割合は、全体から「活動は行わなかった」と「無回答」を引いた56.7%となっています。具体的な活動内容は、「写真を撮った」が31.1%、「神社・仏閣などの文化財を巡った」が30.2%で、この2項目が突出しており、文化芸術の鑑賞(観賞)と比較すると、全体として、実際の活動参加は限定的な状況と言えます。

ウェルビーイング(well-being)の3要素との関係を見ると、いずれの要素においても、数値が高い層ほど「活動した」が多くなっており、正の相関関係が顕著に見られます。

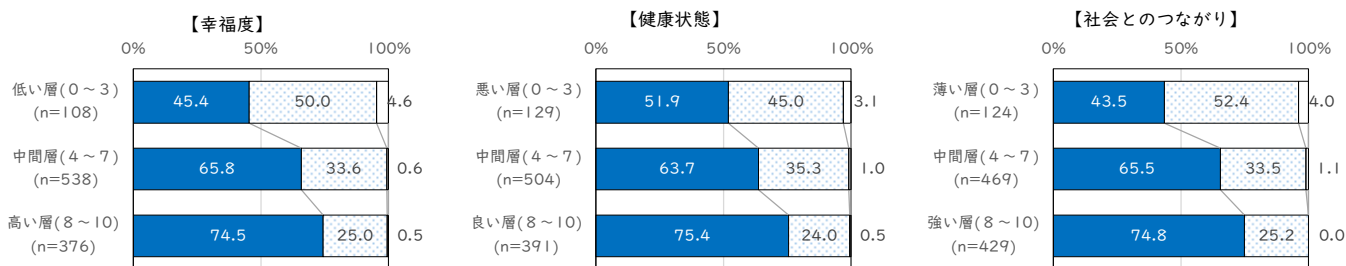


【文化芸術の活動意向】

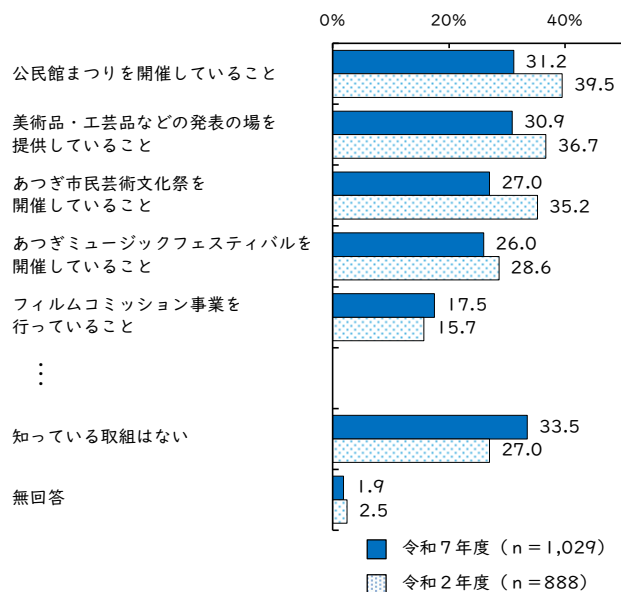


◎いずれかの文化芸術に関する活動を行いたい割合は、全体から「行いたい活動はない」と「無回答」を引いた66.7%となっており、具体的な文化芸術の活動項目は、「神社・仏閣などの文化財を巡りたい」が35.4%と最も多く、「写真を撮りたい」が26.2%などとなっています。「写真を撮りたい」以外の上位項目は、現在の活動状況よりも数ポイント上回っています。また、音楽については、5つのジャンルを合わせると25.7%となり、上位に含まれてきます。

ウェルビーイング(well-being)の3要素との関係を見ると、いずれの要素においても、数値が高い層ほど「行いたい活動がある」が多くなっており、正の相関関係が顕著に見られます。



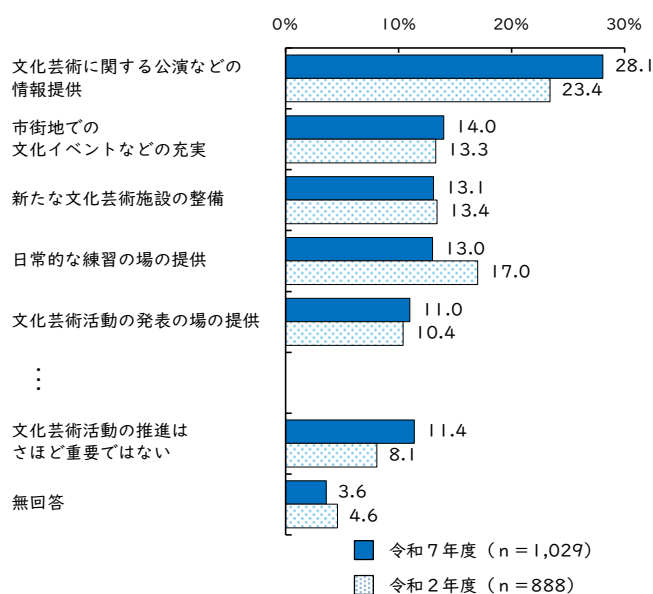
【厚木市で行われている文化芸術に関する取組の認知度】（上位5項目）



◎厚木市で行われている文化芸術に関する取組は、「知っている取組はない」が33.5%と最も多く、次いで「公民館まつりを開催していること」が31.2%、「美術品・工芸品などの発表の場を提供していること」が30.9%などとなっています。

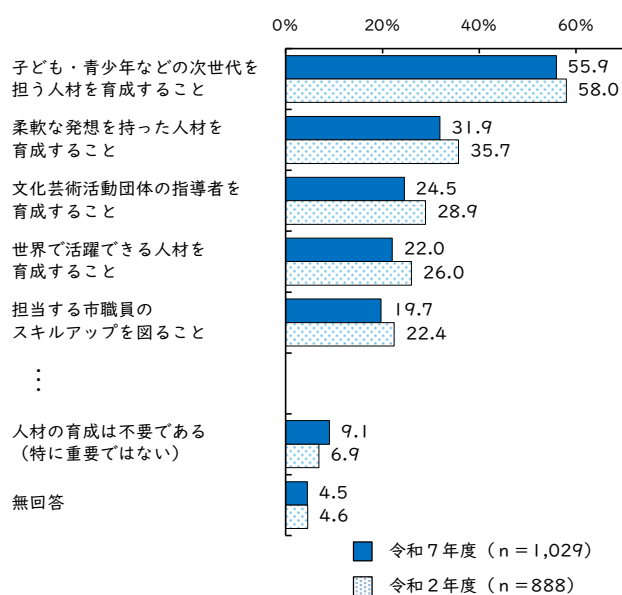
経年比較すると、「フィルムコミッション事業を行っている」以外は、令和2年度よりも認知度が減少しており、特定の取組だけでなく、全体的に認知が進んでいないことがうかがえます。

【文化芸術のまちづくり推進のために必要な施策】（上位5項目）



◎必要な施策としては、「文化芸術に関する公演などの情報提供」が28.1%と最も多く、次いで「市街地での文化イベントなどの充実」が14.0%、「新たな文化芸術施設の整備」が13.1%などとなっています。特に、「文化芸術に関する公演などの情報提供」は令和2年度よりも5ポイント近く増加しています。

【厚木市の文化芸術活動の発展に必要な人材育成方法】（上位5項目）



◎人材育成方法については、「子ども・青少年などの次世代を担う人材を育成すること」が55.9%と最も多く、次いで「柔軟な発想を持った人材を育成すること」が31.9%、「文化芸術活動団体の指導者を育成すること」が24.5%などとなっています。いずれの項目も、令和2年度よりも割合が少なくなっているものの、次世代育成に関する項目が半数以上を占めており、将来を見据えた人材基盤の強化を重視する傾向は継続されています。